

平成21年 5月 15日現在

研究種目： 基盤研究（C）

研究期間： 2006～2008

課題番号： 18520075

研究課題名（和文） 「菅公イメージ」変遷の総合的研究

研究課題名（英文） The research on transition of image of “Kanko” (Sugawara Michizane)

研究代表者

鈴木 幸人 (SUZUKI YUKITO)

北海道大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号： 30374169

研究成果の概要：

様々な分野（縁起絵巻、天神画像、神像彫刻、御伽草子、奈良絵本、近世読本、浄瑠璃、歌舞伎、近代絵画、講釈、絵本…）にわたる「菅公イメージ」データを網羅的に収集することができた。それらをふまえて、新出資料として「丁類の詞書をもつ」縁起絵、「白太夫の登場する」縁起絵等を紹介、「在地縁起（ご当地説話）」の代表例である「道明寺説話」に関わる縁起絵と信仰の変容を分析し、当該分野に新知見をもたらすことができた。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	900,000	0	900,000
2007年度	800,000	240,000	1,040,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,200,000	390,000	2,590,000

研究分野： 美術史

科研費の分科・細目： 哲学 ・ 美学・美術史

キーワード： 天神信仰、菅原道真、神仏習合、天神縁起絵、在地縁起

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、「天神信仰におけるヴィジュアル・イメージ系譜の研究」として結実すべき研究を計画しており、本研究課題は、その全体構想の中で最も基盤的となる研究として計画されたものである。

「天神信仰」は、周知のように、菅原道真（845－903、平安時代の文人政治家）を祭神として中世から現代にいたるまで多くの信仰を集めてきた。他の神祇信仰に見出しがたい特色である「神格の変容」と「在地縁起の成立」に見られるように、各地域に特色ある信仰形態を生みながら、

その享受層を変化・拡大させて来たことは注目される点である。

こうした天神信仰が生み出した多様な造形芸術（そのヴィジュアル・イメージ）については、これまでのところ個別ジャンル（絵巻、神像、画像、渡唐天神像…）の研究がなされ、データが蓄積されているが、その総合的な研究は、近年ようやく緒に就いたところである。

研究代表者は、これまでもほとんど紹介・分析されてこなかった天神縁起絵や在地縁起絵を数多く紹介することで、天神信仰史におけるその重要性を明らかにする試みを行った。その成果は特別展「天神さまの美術」（平成13年度、東京国立博物館他で開催）で作品・資料調査をつうじて、新発見資料を多数含む天神縁起絵、天神画像の紹介したこと、また「天神縁起絵のひろがり 天神縁起絵から菅公の物語へ」（『天神さまの美術展図録』）および「天神縁起絵の諸相 その系譜と展開考察への覚書」（『国文学解釈と鑑賞』851）を発表することで果たされた。いずれも、天神信仰の高まりに伴う天神縁起絵の内容と受容層のともに拡大する傾向を美術史の観点から跡付けることができた。

2. 研究の目的

上記のごとき現状にあって、本研究は、天神信仰の特色と考える「神格の変容」と「在地縁起」に注目しそこに形象化される「菅公イメージ」を考察の中心に据えて、より広い視野から天神信仰のヴィジュアル・イメージの研究に取り組み、その総合的視点の獲得をめざす。ひるがえって天神信仰史の研究にも新たな視座を提供して、多岐にわたる天神信仰の様相の系統立てを目論むものである。

そのため、天神縁起絵巻、天神画像、神像彫刻、御伽草子、奈良絵本、近世読本、能楽、浄瑠璃、歌舞伎、近代絵画、講釈、絵本…、などを考察の対象とし、あらゆるジャンルに現れた「菅公イメージ」を最大

限に収集、その系統立てを行い、その系譜を考察することを目的とする。

とくに、これも天神信仰において特徴的な傾向である「在地縁起（ご当地説話）」（＝各地の天満宮を中心とする地域性の中で独自の菅公エピソードが創作伝承されている）に注目し、その収集分析につとめ、そこに現れる「菅公イメージ」を収集分析することを重視していきたい。なぜなら、かかる「在地縁起（ご当地説話）」に関する体系的な分析考察は、従来ほとんど行われてこなかった研究ということができるからである。

3. 研究の方法

本研究は、天神信仰の重要な特色である「神格の変容」と「在地縁起」に注目し、そこに形象化される「菅公イメージ」、つまり菅原道真（菅公）が、美術、演劇、文芸、伝承等において、どのように語られ、造形化されてきたのかを考察の中心に据え、広い視野から「天神信仰のヴィジュアル・イメージ研究」の総合的視点の獲得をめざすものとして企画された。

そして本研究の独自性は、考察対象ジャンルおよび研究領域を横断して、従来ほとんどなされていない「菅公イメージの集大成」をめざす点にある。これまでは個別ジャンル（縁起絵巻、天神画像、神宝、祭礼…）で研究がなされており、天神信仰の美術全般についての総合的研究は、研究代表者も関わった2001年度開催の特別展「天神さまの美術」（東京国立博物館他）において試みられ一定の成果をあげることで、ようやく緒に就いたといえる。

そのような現状において、本研究は、従来の調査研究の範囲を超えて、天神縁起絵（鎌倉期から明治期まで、絵巻から掛幅まで）、近世の読本絵本類、諸芸能（浄瑠璃・歌舞伎）を考察対象とし、これまで収集したデータを整理分析、また未見資料の調査分析を進めることをとおして「菅公イメージ」変遷の把握につとめる。

4. 研究成果

本研究課題の実施期間にわたって、できる限り、各分野（天神縁起絵巻、天神画像、神像彫刻、御伽草子、奈良絵本、近世読本、浄瑠璃、歌舞伎、近代絵画、講釈、近世絵本…）にわたる「菅公イメージ」データの収集を行うことができた。

それらをふまえて、とくに、新出資料として「丁類の詞書をもつ縁起絵」、「白太夫の登場する縁起絵」等を紹介、「在地縁起（ご当地説話）」の代表例である「道明寺説話」に関わる縁起絵と信仰の変容を分析し、当該研究分野に新知見をもたらすことができたと考えられる。

(1) 未見資料の調査

（以下、主要例について記した）

① 3種類の大坂天満宮所蔵（大阪歴史博物館寄託）北野天神縁起絵巻を実見調査、全巻の画像データを収集。とくに一本は、詞書と絵とは本来別物であり、もとは詞書のみ伝来したものに後に絵を差し加えていったことが認められ、その絵も著名な土佐光信本の系統ながら独自の様式も示すなど興味深い作例であることが認められた。

② 「高山寺縁起絵巻」（大阪・多治速比売神社所蔵）を実見調査、画像データ収集。同絵巻は、近世中期の制作であるが、天神を合祀する神社における縁起絵巻という特異な作例であり注目に値する。現在その全貌の分析を進めているところである。

③ 「天神縁起絵巻」（長崎・対馬八幡神社所蔵）の実見調査。2008年度の九州国立博物館での展覧会に出品された作品であるが、九州地方での在地縁起（ご当地説話）を含む貴重な作例であることが確認された。

(2) 未紹介資料の考察・紹介

従来未紹介ないしはその全貌は知られていなかった天神縁起絵（いずれも近世に

おける天神信仰の変容を示す特異な要素をもつ）の作例を実見調査、分析にもとづいて紹介することができた。

① 「丁類の詞書をもつ」天神縁起絵巻
これまで存在が知られていなかった詞書の系統（「丁類」系統の詞書）をもつ天神縁起絵巻の存在を紹介し、その特色や位置づけおよび今後の天神縁起絵研究への展望等について、これまでの調査研究をもふまえて、2006年度美術史学会全国大会において研究発表（発表題目：所謂「丁類（安楽寺本系）」の詞書をもつ天神縁起絵巻について）を行なった。

② 「渡会春彦の登場する」天神縁起絵

天神縁起と神道講釈・講談の世界とのかわりを示すと考えられる人物（渡会春彦・白太夫）の登場する2件の掛幅形式の天神縁起絵について、「渡会春彦（白太夫）の登場する天神縁起絵」として紹介した。

③ 菅生天満宮所蔵掛幅形式の天神縁起絵

近世に増加する掛幅形式の天神縁起絵の中でも最大12幅の規模をもつ大阪・菅生天満宮所蔵本について、「菅生天満宮掛幅本天神縁起絵—その特色と太宰府本との関係について—」と題する報告（大阪天満宮文化研究所・天満天神研究会）を行ない、太宰府天満宮所蔵12幅本との関連性、および菅生のご当地説話にもとづく信仰から生まれた側面について紹介した。その詳細については、「菅生天満宮所蔵・掛幅形式の天神縁起について」（『太子信仰と天神信仰』所収、2009年6月刊行予定）と題して執筆した。

(3) 近世の天神縁起絵の概括的研究・在地縁起（ご当地説話）をめぐる問題の研究

本研究課題の重要な成果として下記2件の論考を発表することができた。それは、近世の天神縁起絵の概括的研究および在地縁起（ご当地説話）をめぐる問題の研究であり、とくに後者についてはなお近世後期から近代にかけて、版本および活字本の

形態で出版された菅公を主人公とする書籍資料等を30件余り収集することができた。とくに近代における菅公イメージの変容を示す点に着目してこれら資料の調査分析を進め、次項②の論考の基礎とすることができた。

①近世における北野天神縁起絵巻の制作

これまで実見した近世の天神縁起絵の様相を通覧・分析・分類し、北野天神縁起絵巻がどのように「継承・変容」されているかを概観した。とくに「北野縁起」に「菅公生前説話」が挿入され、これが「ご当地縁起」へ展開する基点となることを述べ、そしてご当地縁起の成立と受容こそが天神信仰の近世的なあり方の核となっていることを確認した。また最新の調査結果として、丁類の縁起文にもとづく縁起絵巻の存在を報告した。

②「道明寺鶏鳴説話」をめぐって 一天神縁起絵変容の一側面―

前記論文の成果をふまえて、「ご当地縁起」の最も代表的かつ典型的な説話でありながら、これまでまとまった論考のほとんどなかった「道明寺鶏鳴説話」をとりあげて、その成立と展開の様相を述べた。とくに道明寺鶏鳴説話を収録する縁起、縁起絵（絵巻、掛幅）、絵本読本等、二十数点を紹介することができ、それぞれの特色と系譜について考察を行ったものである。

なお本稿は今後計画している近世から近代にかけての菅公イメージ形成の研究基礎データともなるものでもある。

以上のように、本研究課題の実施をとおして、多数の未紹介資料を実見調査、分析して紹介することができた意義は、当該研究分野に新知見をもたらすことになったと確信するものである。

(4) 今後への展望

①まずは、調査済みの資料で紹介が果たせていないものについて早急に分析を進め論考を発表したい。なかでも「高山縁起

絵巻」は、その内容が近世の天神縁起と道真作の詩文の関係を考察する上から重要であると予想されることから、その分析が急がれる。

②つぎには、上記の道真作の詩文とも深い所縁のあるご当地説話のうち、「明石駅長」説話についての考察を行わねばならない。本研究課題で明らかになりつつある「在地縁起（ご当地説話）」ではあるが、道明寺説話と並ぶ左遷途上説話の重要なものである明石駅長説話の分析は、これまで十分には行われていない。道明寺説話との対比、比較の観点から両者を解き明かすことが必要と考える。

③さらには、近世絵本から近代書籍に現れる、近代における「菅公イメージ」の調査分析へ研究を進めていくことが望まれるだろう。なぜなら、近代において、近世で培われた「菅公イメージ」の特定の部分が拡大される傾向が十分に予想されるからであり、「菅公イメージの近代」についての考察なくして、本研究課題の最初の目論見は達成されないことが明らかとなったといえるからである。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

① 鈴木幸人、「道明寺鶏鳴説話」をめぐって 一天神縁起絵変容の一側面―、北海道大学文学研究科紀要、126号、p.1-35、2008年11月、査読無

② 鈴木幸人、「渡会春彦（白太夫）の登場する天神縁起絵」、天満宮梅風会報、p.16-17 2007年6月15日発行、全国天満宮梅風会、査読無

③ 鈴木幸人、「京都・常照皇寺伝来の北野天神縁起絵巻について」、鹿島美術研究（年

報第23号別冊)、p. 286—296 査読無、2006年11月15日発行 鹿島美術財団

〔学会発表〕(計2件)

① 鈴木幸人、「菅生天満宮 掛幅本天神縁起絵 一太宰府本との比較一」、天満天神研究会／太子信仰と天神信仰の比較史的研究会(合同研究会)、2008年1月13日、大阪天満宮文化研究所(大阪)

② 鈴木幸人、「所謂「丁類(安楽寺本系)」の詞書をもつ天神縁起絵巻について」、第59回美術史学会全国大会・研究発表、2006年5月27日、名古屋大学(名古屋)

〔図書〕(計2件)

① (共著) 武田佐知子編『太子信仰と天神信仰』、思文閣出版、2009年6月刊行予定、鈴木幸人「菅生天満宮所蔵・掛幅形式の天神縁起について」執筆

② (共著) 竹居明男編『歴史と古典 北野天神縁起を読む』、吉川弘文館、2008年11月1日発行、鈴木幸人、「近世における北野天神縁起絵巻の制作」執筆、p. 207—228

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 幸人 (SUZUKI YUKITO)
北海道大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：30374169

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし